

第2部 計画の目指すもの

第1章 望ましい環境像

みんなで作る持続可能で快適な生活環境都市

本計画の上位計画である江南市総合計画では、本市が目指す都市の将来像を、「地域とつくる多様な暮らしを選べる生活都市」と掲げ、社会経済情勢の変化に対応し、地域の魅力を高め、本市が持続的に発展していくための都市構造の実現を市民と行政が協働で目指すための計画が進められています。

平成 24（2012）年 3 月に策定した「第二次江南市環境基本計画」以降、「みんなで作る持続可能で快適な生活環境都市」を望ましい環境像とし、一人ひとりが地域の主役となって、快適な生活環境都市をつくり上げることを目指してきました。

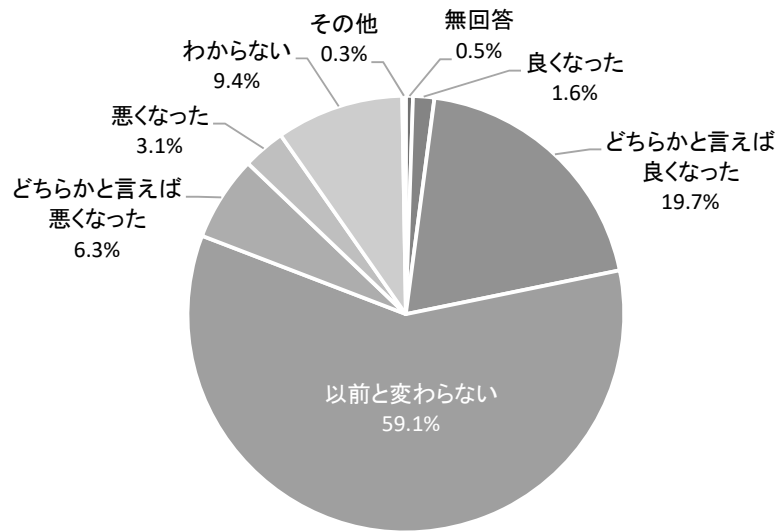
市民意識調査によると、現在の市の環境を 5 年前と比べると、「良くなった」、「どちらかと言えば良くなった」と答えた人は全体の 21.3%であり、「以前と変わらない」が 59.1%と最も多くなっていました。一方、「悪くなった」、「どちらかと言えば悪くなった」と答えた人は全体の 9.4%であり、江南市の環境が悪くなっていると感じる市民の割合は少ないものの、現在の環境については、改善していく必要があることが伺えます。

ベッドタウンとして発展してきた本市において、市民の関心は、身近な生活空間が安心して快適に過ごすことができ、かつ安全に暮らすことができることに向いていると考えられます。市民による現状の評価は高くはありませんでしたが、市内で大きな環境問題は発生していないことから、市民、事業者がマナーに気をつければ、快適な生活環境都市へ一歩ずつ近づいていくことができます。また、その快適な環境を持続するには、地球温暖化のような大きな問題に対しても、一人ひとりが小さな努力を積み重ねていくことが必要です。加えて、温暖化による急激な気候変動へ対応することが求められる中、今日の世代が快適さを求めるあまり、将来の世代の環境を損なってしまうことがないよう、持続可能なしくみでなければなりません。

また、持続可能な社会に向けた新たな道筋として掲げられた SDGs の考えを活用し、本市として、持続可能で快適な生活環境都市の実現に向けて取り組んでいく姿勢に変わりはありません。

本計画を実現するには、私たち一人ひとりの力が重要です。そこで、望ましい環境像を引き続き、「みんなで作る持続可能で快適な生活環境都市」とし、一人ひとりが地域の主役となって、快適な生活環境都市をつくり上げることを目指します。

▼市民意識調査結果 本市の環境について（5年前との比較）



現在の市の環境を5年前と比べると、「以前と変わらない」という回答が最も多くなっています。次いで「どちらかと言えば良かった」となっており、「良くなった」と合わせても、「以前と変わらない」が最も多い回答です。

「（どちらかと言えば）悪くなった」は「（どちらかと言えば）良くなった」と比べると、小さい割合となっています。



第2章 環境目標

望ましい環境像である「みんなでつくる持続可能で快適な生活環境都市」を実現するために、以下の4つの環境目標を設定しました。さらに、環境目標の達成に向け、13個の基本的取り組みをあげています。

本計画はSDGsの考え方と関連させながら望ましい環境像を目指すため、それぞれの環境目標を達成するうえで関連性が強い「SDGsの目標」を示しています。



※1 地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出をゼロにすることを実現した社会のこと。二酸化炭素の排出を低く抑える「低炭素社会」が主流だったが、パリ協定をきっかけに現在は「脱炭素社会」を目指している。

※2 自然環境で起こる現象から取り出すことができ、一度利用しても再生可能な、枯渇しないエネルギー資源のこと。水力、バイオマス、太陽光、太陽熱、風力、地熱、波力などがある。

1. 「地域の環境づくりにみんなで取り組むまち」を目指して

地域の環境づくりには、市民、事業者、市の日常的な取り組みの積み重ねが重要です。市民意識調査によると、「環境学習の場や情報の多さ」の重要度は、決して高くはなく、満足度も低い結果でした。

市民意識調査によると SDGs の認知度について、「聞いたことがある」と答えた人は全体の 73.1%を占めていました。一方、事業所意識調査では、「持続可能な開発目標に関する取組」を「実施している」、「今後、実施していく予定である」と答えた事業所は全体の 21.2%でした。市民の環境保全に関わる意識が高まっているとともに、事業者及び市による環境保全活動の推進が求められていることから、市民、事業者、市それぞれが各自の意識を高め、役割・立場において、自主的に実行する必要があります。

そこで、計画で最も重要なこととして、基本計画の 1 つ目に人を対象とした基本目標を定め、地域の環境づくりをみんなが自主的に取り組んでいくまちを目指します。

この環境目標の達成に必要なこととして、次の基本的な取り組みをあげます。

- 1.市民参加の推進と情報の共有化
- 2.環境教育と環境啓発の推進
- 3.環境保全活動の支援と育成



2. 「ごみを減量し資源の循環利用に取り組むまち」を目指して

各種リサイクル法が制定され、回収・リサイクルの体制が構築されたことや、ごみ減量「^{コウナン}57運動」により、本市におけるごみの排出量は減少していましたが、近年はほぼ横ばいで推移しており、ごみ減量が大切な課題であることに変わりありません。

新ごみ処理施設建設事業を進めていますが、新施設の完成までは、老朽化した江南丹羽環境管理組合（環境美化センター）の焼却施設を使うこととなります。また、最終処分場の確保は、全国的に困難な状況にあることから、現在の最終処分場をできる限り長い期間使うことが求められます。

このため、引き続きごみの排出を抑制することに加え、徹底的に資源を分別・回収・利用し、ごみとして処理される量を減らさなくてはなりません。また、企業には、資源の有効利用を考慮した製品・サービスを開発・提供することが求められています。

そこで、基本目標の 2 つ目に循環型社会の構築に関することを定め、市民、事業者、市が一体となって、ごみの減量化、資源の循環利用に取り組むまちを目指します。

この環境目標の達成に必要なこととして、次の基本的な取り組みをあげます。

- 1.ごみ減量化の推進
- 2.資源の循環利用の促進
- 3.ごみの適正な処理



3. 「青い地球を次の世代につなぐまち」を目指して

わが国の地球温暖化対策計画では、温室効果ガス排出量を令和 12（2030）年までに平成 25（2013）年から 26%削減するという中期目標が定められ、令和 2（2020）年 10 月には令和 32（2050）年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言したことから、温室効果ガスの削減に向けた取り組みがより一層強化されると考えられます。

本市でも、引き続き温室効果ガスの排出削減に向けて一人ひとりの行動を見直し、青い地球を守るため脱炭素社会の構築を目指す必要があります。また、豪雨や記録的な猛暑等といった気候変動の影響や中長期的に避けられない影響に対し、被害を回避・軽減する「適応策」の取り組みを進める必要性が高まっています。

そこで、基本目標の 3 つ目に、地球温暖化を始めとする地球環境問題や気候変動への適応対策に関することを定め、一人ひとりが日常の行動を見直し、また、その思いをつないで、青い地球を守るまちを目指します。

この環境目標の達成に必要なこととして、次の基本的な取り組みをあげます。

1. 脱炭素社会に向けた活動の実践
2. 再生可能エネルギーの普及促進
3. 気候変動の影響に対する適応策の推進



4. 「さわやかな空気と水と緑のあふれる暮らしやすいまち」を目指して

今日、私たちの日常生活や事業活動は、少なからず環境へ負荷を与えており、それがごみ問題や身近な公害となっています。市民意識調査によると、環境に対する満足度及び重要度では日常のマナーに係る項目の重要度が高いものの、満足度は低い結果でした。

また、市役所へ寄せられる苦情を見ると、今や事業者対市民の公害問題ではなく、市民対市民の生活環境問題が中心であることから、日常のささいな行動が思いがけず生活環境の悪化を招くおそれがあることを自覚し、行動を見直す必要があります。さらに、水辺や緑といった自然環境や生物多様性に対する市民の意識が高まっている一方で、そういった環境の保全や維持、創出していくための取り組みを進めることが必要です。

そこで、基本目標の 4 つ目に、私たちの暮らすまちを快適に保つことを定め、汚れのないさわやかな空気、水、そしてあちらこちらに緑がある快適なまちを目指します。

この環境目標の達成に必要なこととして、次の基本的な取り組みをあげます。

1. 生活環境に対するマナーの強化
2. 公害防止対策の推進
3. 水辺と緑の整備
4. 生物多様性の保全と持続可能な利用



